



ゆにふあんレポート

2024-2025



目 次

卷頭言

■ 社会貢献活動で得られる達成感と楽しさを仲間と社会に広げよう 1

ゆにふあんとは

■ ゆにふあんとは 2

活動の振り返り

■ 多様な支え合い・助け合いの活動 4

■ 想いに共感・活動を応援 ~クラウドファンディング~ 5

■ 知る・活用する・参加する ~情報発信~ 6

特別インタビュー

■ 「ゆにふあん」リニューアルの舞台裏——原点回帰と“楽しさ”の再発見 8

事例紹介

01 岡山県教職員組合

■ 地域と子どもたちの未来のために 歴史・文化に続く街道を清掃 12

02 連合三重

■ 労働組合を地域に身近な存在に 地元の個性を生かした社会貢献活動 14

03 fufufu-soup

■ 助成や発信が賛同の輪を広げる 小児患者の家族に向けた食事支援 16

ゆにふあんフォーラム

ゆにふあんフォーラムレポート

■ スポ GOMI in ゆにふあんフォーラム 20

基調講演

■ 労働組合が社会貢献活動をするメリット

連合総研 主幹研究員 中村 天江 23

■ 社会貢献活動に楽しさを加える工夫

(一財)日本財団ス po GOMI 連盟 常務理事 馬見塚 健一 26

パネルディスカッション

■ 社会貢献活動に参加を促す企画について 29

資料

■ ゆにふあん活動の記録 34

社会貢献活動で得られる達成感と楽しさを 仲間と社会に広げよう

日本労働組合総連合会 総合運動推進局長 春田 雄一

労働組合は、働く仲間が互いに支え合い、助け合いながら、自分たちの権利、雇用や労働諸条件を守り向上するために集まった組織です。困っている人を支え、助け合う文化を持つ組織だからこそ、労働組合は地域とつながる活動、すなわち社会貢献活動に継続的に取り組んできました。しかしながら、こうした労働組合の“いい活動”は、まだまだ広く知られていません。マスメディアでは春闘やデモ、ストライキや政治活動といった、世間では自分事化しにくい側面ばかりが報道され、労働組合が身近ではないというイメージが定着してしまっています。

このような状況を踏まえ、連合では組合活動の新しい見せ方やイメージアップに取り組んでおり、ゆにふあんの活用も大切な柱の一つです。ゆにふあんロゴ(ゆにふあん)で強調されている“あ”は「気づき」や「思いやりの心」、それを突き動かす「好奇心」をイメージしています。ゆにふあんサイトにそれぞれの活動を掲載することで、他の組織の取り組みを知り、興味を持ち、参考にするきっかけになればと考えています。また、広く社会に対しても、少しでも多くの人の目に触れて、心に気づきを届けられるよう、工夫していく必要があります。

今、人と人とのコミュニケーションの形が急速に変化しています。テレビや新聞に触れる機会が減り、スマートフォンなどを通じて情報に接するようになりました。そのような中でもリアルな社会貢献活動に参加し、たとえばごみ拾いのような活動を行った後の達成感や、一緒にごみを拾った仲間とのコミュニケーションから得られる楽しさは、スマートフォンで見る動画からは得られないものです。このリアルな楽しさを、オンラインで共有できればという思いから、2025年9月にゆにふあんサイトを大幅に改修しました。

ゆにふあんの取り組みをはじめてから6年が経過しました。今回のサイト改修を通じて、社会貢献活動を企画する仲間に「ワクワク感」を届け、そのワクワクが参加者に伝わり、さらに社会へと広がっていくよう、引き続き取り組んでいきます。社会貢献活動により多くの仲間が集まり、長く続けていける活動にするために、楽しそう、面白そうと思える要素を大切にしながら、笑顔あふれる運動を、みんなでつくっていきましょう。

これからもゆにふあんをよろしくお願いします！

ゆにふあんとは

労働組合やNPO・NGOなどの団体が行う 支え合い・助け合いの活動を
「ゆにふあんサイト」へ掲載することで、
それぞれの社会貢献活動を集約、見える化し、支援ができる仕組みです。



掲載できる団体と構成組織・地方連合会の役割

「支え合い・助け合い運動」に取り組んでいる下記の組織・団体など。

なお、連合本部・構成組織・地方連合会以外の団体の場合は、連合本部・構成組織・地方連合会の推薦が必要となります。

- 連合本部
- 構成組織
- 地方連合会
- 地域協議会
- NPO・NGOなどの団体

掲載にあたっての役割

● 実施団体

構成組織・地方連合会が主団体となる活動

● 推薦団体

- ・単組・地域協議会が主団体となる活動
- ・NPO・NGO等団体が主団体となる活動

活動を盛り上げる仕組み「いいね！」

- 頻繁に活動状況を投稿することで活発なサイトに！
- ユーザーは「いいね！」ボタンで活動を応援！



ゆにふあんがつなぐ・創り出す“民”的力

社会課題に気づき、解決へ向けてみんなで力を合わせて行動へ



支え合い・助け合いの活動をゆにふあんサイトで可視化・共有化し共感へ

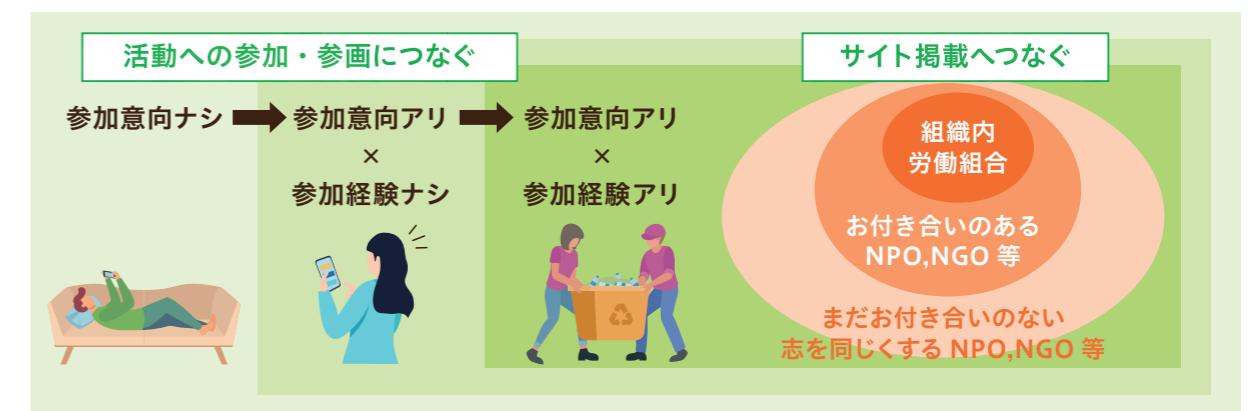
ゆにふあんを通じて労働組合、諸団体、地域、市民、社会とつながる実感

ゆにふあんサイトから参加へつなぎ様々な試みを通じて手応えに

ゆにふあん発展に向けて～ロードマップ～

STEP 1 組織内・連携する諸団体の活動を見る

STEP 2 諸団体との連携・参加・参画につなげる



- 支え合い・助け合いの活動へ参加・参画を通じて共感・喜び・やりがいを感じる
- 諸団体、地域、市民と労働組合のつながりを深める
- 参加を通じて当事者意識の醸成と社会課題解決への行動につなげる

→ ゆにふあんが結節点に

ゆにふあん

■ 正式名称 「ゆにふあん～支え合い・助け合い運動～」

■ 愛称 「ゆにふあん」 支え合い・助け合いの活動を通じて“ユニオンのファンを増やしたい”という想いが由来。ひらがなで親しみやすさを表現。

■ ロゴマーク(一般公募) ユニオンの「U」を重ね合わせて、人が支え合い助け合う様子と、助けを求める声に気付く「あ」という意味を込めている。

ゆにふあん
Webサイト



多様な支え合い・助け合いの活動

未使用食品を寄贈するフードバンクや子ども食堂への支援から、福祉施設でのボランティア活動や物資の寄贈、植林や街の清掃といった自然環境を守る活動、被災地支援まで、日々、様々な取り組みが全国で展開されています。ゆにふあんサイトでは、そうした支え合い・助け合いのアイデアを数多く掲載しています。

働く人を応援

連合東京：貧困・虐待などで親を頼れない若者に伴走支援を



貧困から守る

連合岐阜：フードドライブ活動



教育・子育てを応援

電力総連：夢がつまったピカピカのランドセルを贈ろうカンパ



障がい・介護を支える

自動車総連：社会福祉施設への車両寄贈活動



自然を守る

連合三重：列島クリーンキャンペーン活動



フードバンク・子ども食堂

連合愛知：社会的養護の施設と連携したフードバンク活動



地域を元気に

JP労組：ボランティアセンターの登録で地域の活性化に貢献



被災地を応援

連合大阪：石川県能登半島地震 「大学生」ボランティアバス運行



動物を守る

連合栃木：栃木県での犬猫殺処分ゼロを目指す



その他

JEC連合：第8回社会貢献研修会



マップ掲載
計 981 件
(2025年10月時点)

想いに共感・活動を応援～クラウドファンディング～

ゆにふあんサイトでは「READYFOR」と連携し、資金を必要とする活動のクラウドファンディングの開設をサポートしています。これまで8つのプロジェクトが挑戦し、多くの方々にご支援いただきました。

ご支援いただいた人数 延べ 1,567人 ご支援いただいた金額 合計 16,368,000円

(2025年10月時点)

おおさか災害支援ネットワーク
/ 連合大阪推薦

石川県能登地震
「大学生」ボランティアバス運行



資金のない大学生でも現地でのボランティア活動に参加できるよう、安価な参加費と夜行バスの運行を行った。

145人 857,000円
(600,000円)

連合本部

ウクライナの人々に安心した生活を。
想いをカタチに～連合ゆにふあん～



ウクライナの多くの難民・被災者の救済・支援のための救援カンパを行い、人道支援に取り組む、国連 UNHCR 協議会と日本ユニセフ協議会へ寄付を行った。

110人 853,000円
(1,000,000円)

ゆりりん愛護会 / 情報労連推薦

生き残ったマツの子どもたちを
育てよう！



2021年10月23日、31日に仙台市若林区荒浜にて植樹祭を開催。情報労連宮城県協議会をはじめとした参加者56名により、被災地で生き残った黒マツの苗500本が植樹された。

201人 1,196,000円
(1,000,000円)

社会応援ネットワーク / 日教組推薦

【新型コロナ】【災害ストレス】
#子どもの心のケアプロジェクト



全国から寄せられたお悩みに対して専門家に取材し正確な回答を継続的に発信。心のケア情報サイトも立ち上げた。

154人 1,612,000円
(1,120,000円)

首都圏若者サポートネットワーク / 連合東京推薦

施設や里親の下で育った若者たちを
サポートする若者おうえん基金



2020年上半期に新型コロナ助成事業など3つの助成事業を行い、延べ87団体8,767,250円を助成することができた。

520人 7,844,000円
(3,000,000円)

連合山口

山口県美祢市秋吉台。魅力を守る
伝統行事「山焼き」を続けたい。



2019年11月9日(土)に秋吉台山焼き延焼止め草刈りボランティアを実施することができ、550名が参加した。

127人 1,043,000円
(800,000円)

栃木・わんにゃん応援団
/ 連合栃木推薦

100匹以上の野良猫を救いたい！
～栃木県日光市足尾町～



野良猫 103匹は不妊・去勢手術を行い地域猫として、43匹は里親の元で飼い猫として暮らししている。地域に越冬のための猫ハウスを24台設置した。

216人 2,018,000円
(1,200,000円)

高機能ケア協会 地域交流センター
あすなろ / 連合大阪推薦



活動資金、感染予防のための環境整備などに有効活用し事業を継続している。

94人 945,000円
(700,000円)

※()内は目標額

知る・活用する・参加する ~情報発信~

ホームページをはじめ、季刊RENGOやRENGO ONLINEでの定期的な記事の掲載、SNSでの発信、大会や会議の場での周知など、様々なチャネルを活用して、ゆにふあんの認知の向上に取り組んでいます。



これまで・これからも…
支え合い・助け合い



特別インタビュー

「ゆにふあん」リニューアルの舞台裏 ——原点回帰と“楽しさ”の再発見

日本労働組合総連合会
総合運動推進局 運動推進局
次長
おかもと なおや
岡本 直也



労働組合の「いい活動」を もっと見えるかたちに

そもそも労働組合の原点は、「働く仲間同士が支え合う」ことにあります。その延長として、地域との助け合いである「社会貢献活動」も長年にわたり続けてきました。しかし、そうした取り組みを外部に積極的に発信する手段や、そもそも「発信する」という発想自体が少なかったのです。

「せっかく良いことをしているのだから、もっと多くの人に知ってもらいたい」。そんな思いから、連合本部が各組織の社会貢献活動を一元的に紹介・発信できるプラットフォームとして立ち上げたのが「ゆにふあん」です。

思いとは裏腹に… 投稿・更新のハードル

サイト開設当初は、「投稿には連合本部の承認が必要」「過去記事の半年に一度の更新」など、やや“堅め”的運用ルールが設定されていました。さらに、「新しい企画を投稿してください」「ゆにふあんで参加者を募集してください」といった本部からの要望が、結果的に各組織の負担となっていました。

実際、今回のサイトリニューアルにあたりヒアリングやアンケート調査を行ったところ、「更新の手間が大きい」「何を投稿してよいかわからない」といった声が寄せられました。中には、「既存の社会貢献活動とは別に、ゆにふあん用の新しい活動を行わなければならない」と誤解していた組織もありました。

開設から6年が経過する中で、本来“発信の場”であるはずのゆにふあんが、いつの間にか“報告の場”としての側面が強くなり、投稿や更新のハードルにつながっているという実情が明らかになりました。

3つの改善で 発信の楽しさを感じられる仕組みづくり

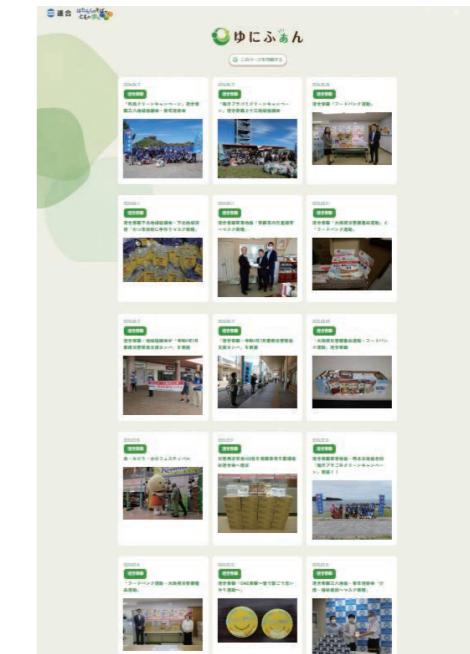
こうした課題を踏まえ、リニューアルでは「見え方」「掲載のしやすさ」「アクセスのしやすさ」の3つを軸に改善に取り組みました。



▲ リニューアルによって、SNSのように次々と更新されるアクティビティ感をつくり出した



▲ 絞り込み検索機能により、該当組織の活動を一覧で表示可能に



▲ 機能面の改善においては、組織内での活用を意識し、利便性を追求した

見え方の改善

- SNSのようなタイムライン表示の導入
- PV数の可視化により、反響を実感しやすく
- 推荐団体別の絞り込み検索機能の追加
- 一覧表示機能を搭載し、活動報告書等への活用を便利に

掲載のしやすさの改善

- 連合本部による承認手続きを廃止し、投稿後すぐに掲載できる仕組みに変更
- スマートフォンからの投稿にも対応し、利便性を向上

アクセスのしやすさの改善

- 連合のSNSでの周知の強化
- 連合機関会議での定期的な状況報告

「アクセスのしやすさの改善」については、今後、「連合サイトのトップページへの埋め込み」や「RENGO ONLINEでの定期発信」などもしていく予定です。

また承認手続きの廃止により、今回のゆにふあんフォーラムのようにイベントの場で専用アカウントを通じて誰でもリアルタイムに投稿することが可能になりました(P.20参照)。その場で参加者が記事を公開・閲覧できるようになり、SNS的なスピード感と手軽さが加わったことで、“発信する楽しさ”を感じられる仕組みが整いました。

投稿する人が楽しんでいないければ、見る人も楽しさを感じられません。現場のワクワク感をそのまま伝えられる場づくりを目指しています。

相互刺激を生み出すために ゆにふあんサイト進化中！

現在は、過去記事の更新よりも、「やったことをその都度発信する」アクションベースの投稿を推奨しています。タイムライン表示により、スクロールすれば他の活動も次々と目に入り、「こんな活動もあるんだ」「うちもやってみよう」といった会話や発想が広がることを狙っています。外部への発信も大切ですが、まずは組織内で「自分たちもやってみよう」「うちの活動も載せてみよう」という相互刺激を生み出することを重視しています。

今後は、「月間3,000PVの安定的なアクセス確保」や、「イベントなどの活用事例の共有」を進めていく予定です。さらに、将来的には表彰制度の導入なども検討できればと考えています。

「ゆにふあん」は、労働組合が行う社会貢献の“いま”をつなぐ場所として、これからも進化を続けていきます。「いいことを、もっとみんなで共有する」。その原点に立ち返りながら、“みんなで育てるメディア”へ成長させたいです。

事例紹介

事例紹介 02：連合三重

労働組合を地域に身近な存在に 地元の個性を生かした社会貢献活動

いとう よしひき
伊藤 由幸

連合三重副事務局長

てらもと まさこ
寺本 誠

連合三重桑員地域協議会 事務局長

かつた なりと
勝田 成仁

連合三重鈴鹿地域協議会 事務局長



地域の課題は地元が知っている 地協主導の社会貢献活動を推進

連合三重の社会貢献活動は、県内に10ある地域協議会が主導する形を原則としています。なぜなら次に挙げるよう、組合、組合員、そして地域にとって、数々のメリットがあるからです。

- ① その地域が本当に必要とする、特色のある取り組みを行える
- ② 組合員が参加しやすいうえ、自身の勤務地への貢献を実感し、やりがいと地域への愛着を得られやすい
- ③ 地元の行政や団体と連携しながら、頻度高く活動できる
- ④ 地元の人たちに、労働組合や連合の存在を身近に感じてもらいやすい
- ⑤ 周辺の地協が相互に刺激し合い、活動の活性化につながる

もちろん今年の三重県中央メーデーで行ったフードドライブのように、県が一体となって取り組んだほうが効果の大きい施策は、連合三重主体で進めるものもあります。け



▲ 子どもたちの安全と笑顔のために毎年大勢の組合員が参加

れども「県全体」にこだわり過ぎて、調整や準備に手間取つて実施までに時間がかかる、実施頻度が限られてしまうというは、本末転倒だと思うのです。活動規模はほどほどでも、フットワーク軽く実行に移せたほうが進展しやすく、内部調整に奔走するよりもずっと有益なはずです。

三重県は南北に長い地形から、地域の規模も抱える課題も違ってきます。また今回紹介する鈴鹿地協や桑員地協のように、地協の活動も以前からさかんです。各地の特色をうまく活かし、個性的な取り組みにつなげています。

ペンキ塗りから砂場の補充まで 公立保育所の環境整備活動

鈴鹿地協では、鈴鹿地区労働者福祉協議会との共催で、鈴鹿市内の公立保育所の環境整備活動を2018年より毎年続けています。

まず市内に10カ所ある保育所に、施設内でメンテナンスを必要とするところをヒアリングします。それから事前準備を経て、当日はそれぞれの保育所に10名程度のグループを派遣する形で、一齊に作業を進めるのが特徴です。

保育所からは遊具や壁のペンキ塗りや植栽剪定、側溝掃除、防水シートの敷設など、さまざまな困りごとが出てきます。多くは職員だけでは手が回らなかったり、外注する予算がなかつたりするところですが、中には高所作業や重量作業など、建設業に従事する組合員のスキルが光る場面も見られます。過去には園庭にある砂場の補充をしたことがあり、トラックで砂を運ぶのに大型運転免許を持つ組合員が大活躍しました。

活動は土曜日に行なうことが多い、土曜保育に通う園児が

作業を見学して、驚いたり興奮したりする姿を目にするとき、やはり嬉しいものがあります。逆に保育所という子どもを安心して預けられる場所があるからこそ、私たちも日ごろ仕事に勤しむことができます。そうした地域との関係性を再認識し、感謝し合う機会にもなっていると感じます。

行政や地域が真に求めるものを ゲーム要素を盛り込んだ清掃活動

桑員地協は桑名市、いなべ市、木曽岬町、東員町の2市2町を管轄していて、行政の要請を踏まえつつ、労働福祉協議会などと協力しながら清掃活動を行っています。

桑員地協に限らず、三重の地協では以前より清掃活動に積極的でした。現在の活動も連合の「列島クリーンキャンペーン」や、各地で実施していた「(舗道に設置された)カーブミラー点検・清掃」がルーツとなっています。

最近では桑名市で行われた花火大会の翌日の早朝に、清掃ボランティアに参加しました。この日は私たちのほか、市長や地元の自治会、他のボランティア団体と一緒に、空のペットボトルや空き缶、食べものの容器や割りばしなどを拾いました。

また5月には桑名市総合福祉会館の半径1キロ圏内で、拾い集めたごみの重さをチームで競うイベントを行いました。ゲーム要素を盛り込んだことで、子どもから大人までどのチームも夢中になって、ごみ拾いに取り組んでいたのが印象的でした。実際に集まったごみの量も、平均で参加者1人あたり1kgを優に超えたほどです。

清掃活動の他にも、子ども食堂を運営する団体の支援にも力を入れています。米の価格高騰に伴って米を贈呈したり、コロナ禍のときはフードパンtries（食料の無料配布）に食料を提供したりと、日々のニーズに合わせた活動を意識しています。

活動は労組の理解浸透のため 力を合わせた体験の提供を

社会貢献活動を進める背景には、労働組合のことを広く市民に知ってもらうと同時に、地域社会に認められ、活動に対する理解を促す目的があります。

それには会場で連合のネームが入ったビブスやジャケットを着用する、のぼりを立てる、あるいは『ゆにふあん』などを通じて活動を伝えるといった、小さなアピールの積み重ねが大事なのかもしれません。また組合員に対しては「共



▲ 桑員地協・桑員労福協合同でのクリーンキャンペーン



▲ 花火大会会場跡地の清掃ボランティアは早朝5時から開始

通の目的に向かって力を合わせた体験の提供」がコミュニティの形成につながり、労使交渉を共に乗り切るうえでも非常に重要だと感じています。

これからも各地協の強みを発揮しながら、価値ある活動を続けていきます。

ゆにふあんサイトもチェックしてね！



記事はこちら



事例紹介 03 : fufufu-soup

助成や発信が賛同の輪を広げる 小児患者の家族に向けた食事支援

fufufu-soup
あおき ゆうた あおき ますみ
青木 佑太・青木 麻純



滋味溢れるスープとおむすびで 子どもの付き添い入院を応援

私たちは群馬県立小児医療センター（渋川市）で、毎週水曜日に手づくりのスープとおむすびのキッチンカーを出店しています。利用いただくのは、主に医療センターに入院している子どもの付き添いをするご家族です。

付き添いは食事の世話から寝かしつけまで、子どもに1日中つきっきりになります。家族は生活が乱れ、食事をおろそかにしがちです。加えて入院期間が長ければ、経済的な負担から生活不安もつきまといます。

そこで湯気をフーフーとさせながら、食べてフフと笑顔になれる温かい食事を、手頃な価格で提供したいと2022年から始めました。

スープは季節の野菜をふんだんに使い、自然栽培米のおむすびは定番から変わり種までをラインアップ。化学調味料や砂糖を使わない調理法で、体にやさしい食事を手軽に補えます。

付き添い家族の食事を支えるのは、「おうえんチケット」という仕組みです。取り組みに賛同する方々にチケットを1枚300円で販売し、家族はキッチンカーに貼られた賛同者の購入チケットを使えば、スープやおむすびのセットを300円以内で食べられます。



▲ 親御さんだけでなく、子どもや看護師さんも訪れる

付き添い家族の方からは「スープをひと口飲んでホッとした」「おうえんチケットのメッセージにグッときた」「また子どもの前で笑顔になれる」と、栄養を補うとともに気持ちの面でも作用しているようです。また家と施設との往復で社会との接点が途切れがちになりやすいなか、店がつなぎの役割を果たしているところもあります。

食事の乱れに離職、金銭的不安も 生活を犠牲にしている家族の現実

fufufu-soupの原点は、私たちの息子の白血病の治療のため、この医療センターで過ごした日々にあります。

付き添いが始まると妻はフルタイムの仕事を辞め、息子が余命宣告を受けた頃には、私も介護休職の取得を余儀なくされました。さらに東京の病院に転院してからは、治療費だけでなく、往復の交通費に付き添い家族のベッド代など、驚く勢いでお金が飛んでいきました。

自炊する時間や気持ちの余裕はなく、金銭的にも外食は避けたいとなると、カップ麺や菓子パン、栄養補助食品を口にする日が続きました。すると私も妻も口内炎ができたり、たびたび風邪をひいたりと体調を崩してしまったのです。

実際、付き添い家族を支援するNPO法人キープ・ママ・スマイリング（現・認定NPOキープ・スマイリング）の調査で、



▲ おうえんチケットのメッセージに多くの家族が励まされている

付き添いを行う家族の半数以上が体調不良になり、また経済面の不安を感じていることがわかっています。子どもと一緒に病を乗り越えるべきパパやママが、先にまいってしまってもおかしくない状況にあるのです。

私たちの息子は天国へと旅立って行きましたが、このときの経験から付き添い家族への食事のサポートをしたいと思うようになりました。二人とも料理人の家系に育ったこともあり、おいしいご飯が活力になることを体が知っていたかもしれません。そしてあるとき、病院でキッチンカーによる食事支援を行う記事を見たのをきっかけに、いろいろなご縁がつながって医療センターへの出店が実現しました。

いつも大切な局面で支援の手が 認知に貴重なメディアの存在

これまで事業を続けてこられたのは、賛同してくれる人との出会いと支援があったからです。立ち上げの頃にキッチンカーを無償で貸し出してくれる方が現れたり、クラウドファンディングに挑戦したところ、当初の目標額の3倍以上のご支援をいただいたりと、大切な局面ではいつも誰かの温かな手が差し伸べられてきました。

連合群馬との接点も、「連合群馬愛のカンパ」^{※1}の助成団体としてfufufu-soupを選んでいただいたのがきっかけです。

助成は2023年度から受けいて、これまで調理設備の拡充や、かき氷の販売に必要な機材の調達、販売を始めたばかりのレトルトカレーの在庫管理に活用しています。金銭的な支援は、急激な物価高騰に見舞われるなかで、事業の縮小ではなく次の一手を考える手立てとなっていて、本当にありがとうございます。

またふれあいフェスティバル in 北部^{※2}への出店や講演会での登壇機会をいただけたことで、取り組みや付き添いの現状を一般の人にも広く知ってもらうことができました。会場ではおうえんチケットを何枚も買ってくれる人がいたり、

※1 連合群馬が取り組む社会貢献活動の一つで、8つの地域協議会の行事等で集約された募金や構成組織からの善意を、社会貢献活動を行う団体に支援するもの。

※2 メーデーにかかり、毎年5月に県内の地域協議会が各地で開催する、地域とのふれあいの場・働く仲間の祭典。



▲ 栄養面はもちろん、手軽に食べられることも重視している

「前に付き添い看病をしていた」と話しかけてくれる方も多いたりして、私たちにとっても刺激となっています。

将来の究極の理想は、fufufu-soupのような活動が不要な社会です。日本も診療報酬の改定など付き添いの負担を減らす動きはありますが、まだまだ家族の体や生活を犠牲にしないといけない場合が大半です。

今後もしばらくは出店を続けながら、付き添い家族の環境改善を訴えていく必要があるでしょう。それには発信が重要になりますが、自分たちからだけでなく、「ゆにふあん」のように周囲に伝えてくれるメディアの存在は非常に貴重です。これからも長い目で、私たちの活動に注目してもらえたなら嬉しく思います。

ゆにふあんサイトもチェックしてね！



記事はこちら

ゆにふあんフォーラム

ス po GOMI

in ゆにふあんフォーラム

開幕!



春田 雄一 総合運動推進局長の挨拶で、
ゆにふあんフォーラム開幕！

連合本部も皆さんと一緒に社会貢献活動を実践したいと考え、今回のイベントを企画しました

作戦会議



チームごとに作戦会議。チーム名とリーダーを決めて、競技エリアを把握します。



まずは、ス po GOMI 連盟の馬見塚 健一氏がルールを説明。走らない、はぐれない、エリアと時間は厳守など、注意事項を確認。

このあたりに得点の高いごみがありそう？

競技開始



ごみ拾いは
スポーツだ！

則松 佳子 副事務局長の選手宣誓で、競技スタート！
参加者の気持ちも盛り上がっています。

2025年8月30日（土）、第3回ゆにふあんフォーラム～楽しい社会貢献活動LIFORK HARAJUKUにて開催しました。今回は基調講演やパネルディスカッタ、スポーツとゴミ拾いを掛け合わせた「ス po GOMI」を実施。会場の参加者約60名が11のチームに分かれてごみを拾い、ゴミの量と質でポイントを競い合いました。



で仲間の輪をひろげよう！～を東京・原宿のショパンに加え、本部主体の社会貢献活動とし者約60名が11のチームに分かれてごみを



真夏の開催ということで、今回は制限時間30分で実施。人どおりの多い原宿駅前から表参道を中心に、各チーム、ごみを拾っていきます。



高得点のごみを
ゲット！？



ごみは、燃えるごみ、燃えないごみ、ビン・カン、ペットボトル、たばこの吸い殻に分類。チームごとに計量して得点を付けます。



思った以上に楽しかった。ごみの種類を確認しながら、自然とチームメンバーとコミュニケーションがとれるのも良かったです（構成組織参加者）



リニューアルしたばかりのゆにふあんサイト。見え方の改善だけでなく、投稿や編集もより簡単になりました。ス po GOMI の様子もさっそく投稿！



集めたごみの重量6.38kg、1,114ポイントを獲得したチーム「ゴミニケーション」が優勝！

優勝賞品として、ユニオニオンのぬいぐるみキーholderが贈呈されました。

表彰式



チームワークとコミュニケーションが勝利のカギに！？

登壇者紹介

連合総研
主幹研究員
中村 天江 (なかむら あきえ)

1999年リクルート入社、2009年リクルートワークス研究所に異動。2021年10月から連合総研で主幹研究員。「働き方の未来」をテーマに調査研究・政策提言を行う。2024年の「労働組合の未来」研究会の報告を受け、「地域社会と労働組合」研究を推進中。連合総研『DIO』411号にて「労働組合はソーシャル・キャピタル!」特集を企画。



著書・研究・調査レポート



DIO 2025年
8・9月号特集
「労働組合とソーシャル・キャピタルの交差点」



DIO 2024年
8・9月号特集
「労働組合が『婚活イベント』を行うは非」ほか



オリンピック・パラリンピックのボランティア・レガシー

サービス連合
事務局長
石川聰一郎 (いしかわ そういちろう)



2003年株式会社ジェイティービー入社。2014年JTB首都圏地域労働組合コーポレート支部執行委員に。2015年同執行書記次長、JTB首都圏地域労働組合執行委員などを経て、2017年サービス連合副事務局長就任。2019年より現職。

日本労働組合総連合会
総合運動推進局長
春田 雄一 (はるた ゆういち)



1993年スズキ株式会社入社。スズキ自販東京(営業)、湖西工場(労務、生産管理)、本社管理部に勤務。2004年スズキ労組支部委員、2006年自動車総連中央執行委員に就任。2012年に連合入局後、経済社会政策局長、運動企画局長を経て、2024年10月より現職。



連合京都北部地域協議会
アドバイザー
水口 一也 (みずぐち かずや)



1977年関西電力株式会社入社。1980年より12年間、労働組合支部執行委員を務めたのち、専従役員に。2011年連合京都中部地域協議会事務局長、2019年連合京都北部地域協議会事務局長を歴任。2024年より現職。

(一財)日本財団スポーツGOMI連盟
常務理事
馬見塚 健一 (まみつか けんいち)



2008年一般社団法人日本スポーツGOMI連盟を設立。ゴミ拾いという社会貢献活動にスポーツの要素を取り入れた「スポーツGOMI」を発案。2025年に日本財団と新団体を発足。一般財団法人日本財団スポーツGOMI連盟として活動をスタート。

活動



I 基調講演

1. 労働組合が社会貢献活動をするメリット

連合総研 主幹研究員
中村 天江

アに参加しているのかを調べたところ、ほとんどの国では個人で行っているのに対し、日本ではNPOや企業など、何らかの「組織」を介して活動するケースが圧倒的に多いんです。そのため、労働組合がボランティア活動を推進することは、ボランティアに関心があっても活動できていない労働者層の行動喚起に一役買うことになります。

ただ、労働組合は社会貢献活動を活発に行えているかというと、むしろ衰退しています。厚労省の調査で労働組合の重点活動について確認すると、「社会活動・地域活動」の割合は、2008年は12.4%でしたが、2023年には3.6%まで激減しています。労働組合の社会貢献活動は、もはや風前の灯火ともいえる状況です。

一方で、興味深いデータがあります。連合の調査で、「どんなときに労働組合を身近に感じるか」を尋ねたところ、連合が災害支援や社会貢献活動、ボランティア活動、あるいは環境問題の解決に向けた活動をしていることを知っている場合、7割以上が「連合を身近に感じる」と答えています。これは春季生活闘争や政治・選挙活動

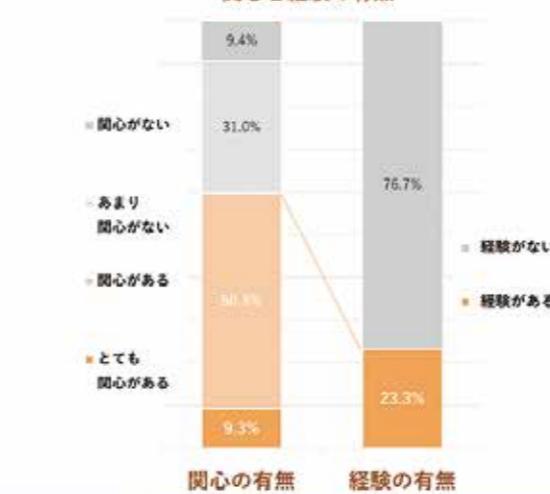
労働組合のボランティアは風前の灯火?
社会の期待・効果とリアルのギャップ

連合総研に来る前、リクルートワークス研究所に勤めていた時に、オリンピック・パラリンピックのボランティア活動について研究していたことがあります。今日は、その時の調査分析などをもとに、「データで見ても、労働組合は社会貢献活動をしたほうがいい!」ということをお伝えできればと思います。

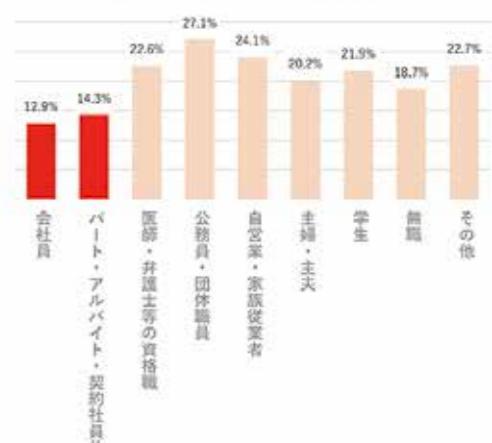
最初にお見せしたいのは、内閣府の調査です。現在、ボランティアに関心のある人は6割にものぼります。けれども実際にボランティア経験のある人は2割超にとどまります。属性別に見ると、会社員、そしてパート・アルバイト・契約社員などの参加は10数%と、公務員や自営業・家族従業者の25%前後と比べて低い値です。つまり、会社で働く人が最もボランティアをしたくても活動できていないのです。

日本のボランティア活動では、「組織」が重要な役割を果たしています。OECDがどんな経路でボランティ

ボランティアの経験率

ボランティア活動に対する
関心と経験の有無

属性別のボランティア経験率



左上内閣府「平成27年度特定非営利法人及び市町の社説各部に関する実態調査」

右上内閣府「平成25年度労働の社会貢献に関する実態調査」

を知っている場合よりもずっと高い。ということは、今の時代に労働組合が人々から共感を集めるには、社会貢献活動が非常に有効だと考えられます。

アメリカ財務省が2023年に発表した政策レポートも、労働組合は社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）をつくり、市民の社会参加を促し、個別の労働者を越えた便益を地域にもたらす存在だとしています。支え合いを旨とする労働組合は、本来、社会貢献活動と親和性が高いはずなのです。

個人、労働組合、企業にも広がる 社会貢献活動の波及効果

次に、社会貢献活動がいかに有益であるのかをそれぞれの立場から考えてみます。まず大前提として、社会貢献活動は困っている人や弱い立場にある人々のための活動で、見返りを求めるものではありません。これが根幹であることは所与なのですが、想像以上に波及効果があります。

最初に、社会貢献活動に参加する個人にとっての意義です。OECDのボランティア・レポートでは、「ボランティアを行う理由」として、「自分自身の強みを探ることができる」「自分が働きたい場所への足掛かりとなる」「履歴書に好印象を与える」など、個人の利点を挙げています。日本ではボランティアというと、無報酬の社会奉仕だと考えられがちですが、海外では個人のキャリアにもプラスになるものと捉えられています。

実際にリクルートワークス研究所で、「所属するコミュニティとキャリア展望の関係」について分析したところ、「ボランティアやNPO」に所属している人は、他のコミュニティに所属している人に比べて、キャリアや人生を自分で切り拓いていく、前向きに取り組んでいくと感じる人が多いことが明らかになりました。ちなみに最もキャリア展望が低いのは、コミュニティが「同じ部署の同僚」だけに閉じている人たちで、スコアが4倍以上



違います。

では、なぜボランティアなどの社会貢献活動が、人生を豊かにするコミュニティとなり得るのか。これもデータで補足できます。リクルートワークス研究所で、どのような人間関係が、個人の安心や喜び、成長や展望といった精神的な豊かさにつながるのか分析したことがあります。すると、「ありのままでいられる」「共通の目的がある」という2要素を満たす人間関係は、どちらか片方の要素のみを満たす、もしくは、どちらの要素も満たさない場合よりも、4項目ともスコアが高いことがわかりました。

社会貢献活動では、自分と同じテーマに関心がある仲間と一緒に、仕事と違い利害関係がない場で、素の自分を出して活動することができます。そのため、社会貢献活動が人生を豊かにするコミュニティになるのです。

次に、企業と社会貢献活動の関係を確認しましょう。昨今、企業の社会的責任が今まで以上に問われ、経営者が社会貢献活動を積極的に推進するようになっています。経団連の「社会貢献活動に関するアンケート」を経年で比較すると、社会貢献活動を行う理由として、「社員が社会的課題に触れて成長する機会」、社員のモチベーションや帰属意識の強化」をあげる割合は、この20年間で大きく増加しています。また、社会活動に積極的な管理職は、社会活動が本業に生きると考えている人が6割にのぼり、消極的な管理職より約2割高いことも、リクルートマネジメントソリューションズの調査でわかつています。

最後に労働組合についてです。労働組合が社会貢献活動を行う理由は、困っている人や団体のために何かしたい、役に立ちたいとうことに加え、活動を通じて労働組合に対する認知や信頼を高めることにあります。けれどもNPOや企業が同じような取り組みをしたときと比べ、労働組合の社会貢献活動はあまり話題にのぼっていないように思っています。

先日、研究の一環で、経団連の社会貢献活動の推進部署の方々に話をうかがいました。そこで、企業による社会貢献活動と労働組合による社会貢献活動は何が違うのかを議論したところ、「たとえばNPOは協業先として企業ロゴを載せることで、活動の信頼感などプランディング効果を期待できる」という話になりました。一方、労働組合をコラボレーション相手として日々的に出している例はあまり聞きません。そのことを踏まえると、労働組合は広報やプランディングの面で、工夫の余地があると思いませんか。経団連の方は、「社会課題に関しては、労働組合から経営に積極的に働きかけてほしい」とも話

労働組合による社会貢献活動のアップデート

<これまで>

- これまでやってきたから
- 大事なのは実施有無
- 参加者は動員
- もくもくと作業
- 活動内容は毎年同じ
- すべて自前で企画・実施

<今後>

- なぜ社会貢献活動を行うのか
- せっかくならより有意義な場に
- 自発的参加+周りを誘いたくなる
- 活動を通じて何か感じる、考える
- 活動内容をアップデート
- 他の労働組合、団体、会社等との連携

© Akio Nakamura

18

していました。

動員力に頼るやり方を見直し 自発を促す仕掛けやアプローチを

社会貢献活動は、社会だけでなく、個人や企業、そして労働組合にとって、「四方よし」にもかかわらず、なぜ労働組合では今ひとつ盛り上がりに欠けるのでしょうか。

ここでヒントとなるデータを紹介します。東京オリンピック・パラリンピックのボランティア活動に参加した人たちに行った調査の分析結果です。ボランティア活動のなかで、「オープンマインドな協働」「働く自己に関する内省」「所属組織に関する内省」を経験すると、その後のボランティア意向や、ダイバーシティの尊重や個人の自律、組織に対するエンゲージメントが高くなるのです。

要は、いつもと違う人たちと、立場や利害に関係なく触れ合えたり、日ごろの働き方を俯瞰したり価値を考えたりといったことができると、ボランティア活動の波及効果が生じやすい。ボランティアであれば中身は何でもいい、というわけではないのです。

動員力は労働組合の強みの一つですが、「参加させられている」という感覚を引き起こすリスクも秘めています。表向きは「素晴らしい取り組みですね」と評価されても、組合員は「いつもの会社のメンバーと、なぜ仕事でもないことを一緒にしなければいけないんだ。面倒な

だけで、何ひとついいことなんてない」と、活動を否定的に捉えてしまうこともあります。

そうした流れを変える、新たなアプローチを取る労働組合が出てきています。たとえばデンソー労働組合は「カワレル Action College」という企業内大学を自分たちで立ち上げ、いろいろな参加型イベントを行っています。これがまさに地域に根差した社会貢献活動で、組合員は関心を持ったテーマに自ら手を挙げて参加し、個人の行動を通じて、地域から感謝される仕組みです。またクリディセゾン労働組合は他の労働組合と共に開催の形で、今日みんなで体験したスポーツGOMIを行っています。4労組からスタートし、今では18労組が参画する取り組みへと広がっています。

労働組合の社会貢献活動はいま、取り組みを見直す分岐点に立っています。労働組合というとストライキや春季生活闘争のような「闘う」イメージが強いですが、地域のなかで「支え合い・助け合い」に取り組む存在として認知されるほうが親近感は高まります。また「社会に奉仕する」という真面目な気質は、労働組合のよさですが、それだけがすべてではありません。社会課題への取り組み方はもっといろいろあります。参加者が自発的に関わりたくなる、つながりを広げる仕掛けを盛り込み、誰かに話したくなる企画にすることが大切です。

労働組合の強みは、人と人、組織と組織をつなぐ力です。労働組合同士、あるいは生協や労福協といったほかの組織との連携力を生かし、リソース制約を乗り越え、活動を充実させていきましょう。

2. 社会貢献活動に楽しさを加える工夫

(一財) 日本財団ス po GOMI 連盟 常務理事
馬見塚 健一

ごみ拾い×スポーツで参加者も夢中に！ 海洋ごみ問題が身近になる「ス po GOMI」

皆さん、講演前に行った「ス po GOMI」体験はいかがでしたか？おそらく単にごみ拾いをするよりも夢中になってごみを探し、ワクワクした気持ちで取り組めたのではないかと思います。

今日は「ス po GOMI」を例に、社会貢献活動とスポーツをかけ合わせることの意義や効果、またどのようにして楽しくなる工夫を盛り込んでいるかをお伝えできればと思います。

「ス po GOMI」は2008年に活動を開始し、現在は自治体や企業、団体と連携しながら全国各地で年間200以上の大会を開催しています。

ルールを簡単に説明すると、60分ほどの時間制限のもと、3～5人1組のチームでごみ拾いを行い、ごみの重さや種類で定められたポイントを競います。企業とのコラボレーションも多く、ユニクロとは2022年より毎年開催しています。社員が当日の受付やルール説明、進行などに関わり、同社と契約するアスリートをゲストに招くなどして、自分たちで大会を盛り上げているのが特徴です。

私たちは「ス po GOMI」の運営を通じて、海洋ごみの問題解決に取り組んでいます。現在、海には年間800万トンのごみが捨てられ、1億5000万トンのごみが蓄積していると言われています。2050年には海洋生物よりも、ごみのほうが多くなる計算です。ごみの大半はプラスチックです。川から海へ流れ、沖に漂うごみの回収は困難で、さらに500年経っても分解されることはありません。また近年、マイクロプラスチックの問題が指摘されているのは、皆さんもご存知でしょう。

とはいえた海洋ごみの問題を自分ごとにすることには、日ごろの生活とかけ離れていて難しいところがあります。そこでごみ拾いを通じて気づきを促したいわけですが、継続させるには非日常感やワクワク感、そして楽しさがマストだ、ならばごみ拾いにゲーム性を持たせようと考えたのです。

ひらめきのきっかけは、朝のランニングでした。街な



かを走っていると、道端のごみが目につきます。最初こそ恥ずかしさが相まって、「ごみ袋を持っていないから」など拾わない理由を探していたのですが、でも思い切って拾ってみると気持ちがいい。そのうち、30秒以内に探す！次のごみを見つけるまで片足で走る！などマイルールを設けてみると、時間も忘れて夢中でごみを拾う自分がいたのです。

もともと環境問題とスポーツをかけ合わせた企画やブランディングを手がけていたことから、「これを広めたら、おもしろい活動になるはず！」と確信しました。

誰でもどこでもできるルールづくりと 学術的証明によって受け入れられるように

社会貢献活動として「ス po GOMI」を定着させるために、まずルールづくりの方針を定めました。大切なのは、どこでも開催できる誰でも参加できる、地域を巻き込みながら参加者同士のつながりを築ける仕組みです。そして運営の負荷をかけないように、イベント全体が3時間以内で終わる形にしました。

今でこそ、延べ20万人が参加する規模に成長した「ス po GOMI」ですが、始めた当初は理解を得られず、特にこれまで清掃活動を主導してきた方々から「ふざけている」と受け入れてもらえませんでした。一方、彼らも「若者がごみ拾いに参加してくれない」という課題を抱えていて、「ス po GOMI」の効果さえ証明できれば見方が変わるものではないかと考えました。

そこで国立環境研究所を訪れ、「ス po GOMI」を研究してもらえないかと提案しました。2年間にわたる研究

ス po GOMI の強み

どこでも開催、だれでも参加できる スポーツを通した地域貢献活動

ス po GOMI が持つ、5つの強み

ス po GOMI が持つ大きな特徴は、どこでも開催可能で、誰でも参加できることから、地域コミュニティーの新たな結束力やリアルでの繋がり、楽しさを構築していくことが出来ます。また、3時間程度で終了する競技のため、気軽に参加しやすいのも特徴のひとつです。

1. どこでも開催できる！

街や海岸、野山など、どこでも競技エリアとなります。

2. だれでも参加できる！

子供から学生、大人、ご高齢者まで誰でも楽しめます。

3. 地域を巻き込む！

自治体、学校、企業など地域で協力し合って取り組む活動です。

4. 結束力の向上！

地域コミュニティーの絆、リアルでの繋がりや楽しさを育みます。

5. 短時間で完結！

1大会3時間で終了するため、イベントとして採用しやすい。



10

は、スポーツがキーワードとなって若年層やごみ拾い経験の浅い人が参加していることのほか、「ス po GOMI」をきっかけに他の社会貢献活動に関わるようになったなどの効果を明らかにしました。こうして清掃活動の諸先輩方にも納得してもらい、徐々に活動が広がっていきました。

こうして認知された「ス po GOMI」は大会のバリエーションも増えて、現在では様々な形式や規模で開催されています。日本財団をはじめ、東京オリンピック・パラリンピック、国連広報センターなど、各組織との連携によって取り組みが育っていました。

また、高校生を対象とした「ス po GOMI 甲子園」は、地方予選から全国大会に展開し、途中でごみ拾いアイテムの制作や標語づくりなどの課題も加えながら、高校生同士がネットワークを広げられるような設計になっています。始めた当初は「先生に言われて参加した」という声も聞かれましたが、今では大会をきっかけに部活動として掃除部が立ち上がった高校が出てきたり、全国大会出場を目指して他の大会で練習する高校生の姿も見かけたりするようになりました。

そして「ス po GOMI」は世界にも広がりつつあり、

2023年より「ス po GOMI ワールドカップ」を開催しています。開催を決めた当初はやはり、「ス po GOMI」の趣旨を理解してもらうのに苦労しました。広めていくには、オーガナイザーの存在が大きいですね。「ス po GOMI」の考えに共感し、行政との交渉力のある人が入ると話が進みやすくなります。また今年開催の第2回は、第1回に参加した隣国様子をみて参加を決めたという国が出てくるなど、一昨年より13カ国増えて34カ国のチームが世界一をめざしています。

理屈で人は動かない 楽しさを味方に 自分たちが面白がりながら活動を

ここまで「ス po GOMI」について紹介してきましたが、スポーツとのかけ合わせは、ジェンダーギャップやフェドロスなど他の社会課題にも有効ではないかと考えています。私たちは今の組織体制の前身で、「ス po GOMI」以外にもスポーツと社会課題のかけ合わせにチャレンジしてきました。たとえば鹿児島では市民マラソン大会の開催に合わせて地域の銭湯をランニングステーションにして活性化を図り、長野では過疎化が進んで収穫期を過

ぎた柿の木の処理が追いつかない問題を、柿をもぎ取った数などで競うイベントを催して地元の学生や家族連れを巻き込むことに成功しました。

最後に、地域貢献活動に楽しさを加える工夫を4点にまとめます。

まずは「やらされている」ではなく「やりたくなる」仕掛けです。「スポ GOMI」にみたように、ゲーム性やチーム制を取り入れて、達成感だったり勝負による嬉しさ、悔しさの要素を盛り込んだりするのです。インセンティブを取り入れるのも有効でしょう。

次に非日常体験を通じ、意識転換を図ることです。たとえば、今では地域に根ざし、各地に多くの地元ファンを獲得しているリーグですが、発足当時はプロスポーツによる地域振興の考えが、市民になかなか理解されませんでした。そこで観戦チケットを配布し、サッカーの迫力やチームを応援する面白さを体験してもらったのです。理屈では人は動きません。行動変容につながる体験の提供が大事になってきます。

3つめは小さな成功体験を積み重ねること。はじめは小さくスタートし、成果見える形で残しましょう。それを何度も繰り返すことで、共感する人を徐々に増やすことができます。

そして4つめは、仕掛け人である自分たちが面白がって取り組むこと。どんなに社会にいいことでも、楽しくなければ続かないし、周りに魅力を伝えることはできません。他にも誠意をもって情熱を注ぐことや、柔軟性や多様性を持たせたアプローチも大事なポイントです。

そもそも、「スポ GOMI」をやってみたいと思ったら、ぜひ私たちに声をかけてみてください。私たちには多くの自治体や企業とのコネクションもあります。関係者を巻き込んで、楽しい社会貢献活動を進めていきましょう。



社会貢献活動に楽しさを加える工夫

- 1、「やらされている」から「やりたくなる」仕掛けづくり**
 - ・ゲーム性(スポーツ) ・個ではなくチーム戦 ・達成感
 - ・嬉しさ悔しさ ・わくわく感 ・ギャップ ・インセンティブ
- 2、意識変換させる**

大義や理屈だけでは人は動かない。意外な組合せ、
非日常の体験から行動変容を起こさせる。
- 3、小さな成功体験の積み重ね。成果を可視化する。**

それらを共感、共体験させる。
- 4、自分自身が面白がる。**
- 5、情熱と誠意。継続は最大のマーケティング。**
- 6、目的達成へのアプローチに柔軟性と多様性を持つ。**

28

II パネルディスカッション

社会貢献活動に参加を促す企画について

〈パネリスト〉 連合総研 主幹研究員 中村 天江
(一財) 日本財団スポ GOMI 連盟 常務理事 馬見塚 健一
サービス連合 事務局長 石川 聰一郎
連合京都 北部地域協議会 アドバイザー 水口一也

〈モデレーター〉 連合 総合運動推進局長 春田 雄一

運動方針への記載が説得の後押しに 全国同日開催の清掃活動

春田:ここからの時間は、基調講演に登壇された中村さん、馬見塚さんに加え、実際に組合内で社会貢献活動に取り組む、サービス・ツーリズム産業労働組合連合会（以下、サービス連合）事務局長の石川聰一郎さんと、連合京都北部地域協議会（以下、連合京都北部地協）アドバイザーの水口一也さんにも入っていただき、「組合員が参加したくなる社会貢献活動づくり」について考えていきたいと思います。

まずは石川さんから、事例としてサービス連合で行うボランティア活動について教えてもらえますか。

石川:サービス連合は、ホテルなどの宿泊施設やレジヤー施設、旅行業や添乗員の人材派遣、国際航空貨物などを対象とした産業別労働組合です。結成当初から、基本理念に「労働者・市民と連携しながら環境にやさしい社会の実現に向けた貢献」を掲げていて、最新の運動方針でも社会貢献活動を明文化し、専従者内の委員会でも活発な議論が行われています。

そして最近始めたのが、清掃活動です。サービス連合全体で全国共通の社会貢献活動ができるかと考えていたところ、一昨年のゆにふあんフォーラムでごみ拾いを取り上げていたことから、私たちもやってみようということになりました。

実施にあたり課題となったのは、回収したごみの処理と参加者同士のつながりをどう深めていくかでした。そこでサービス連合に加盟するホテルにごみ処理を協力いただく代わりに、懇親会会場として使用することにしました。

中には「社会貢献活動は肅々と取り組むべきだ」、「懇親会ありきでやっているんじゃないかな」といった意見も

ありました。しかし、まずは始めてみなければわからないということで、全国にある7つのブロックで同日に開催しました。今思うと関係者を説得するために、運動方針に社会貢献活動を記載したことが奏功したと感じます。

参加者からはごみ拾いもやってみると意外と夢中になり、懇親会も含めて楽しかったという声が多く上がったことから、2年目の今年も開催しました。また前回の実施を経て、参加者は交通安全の面からバスを用意するなど改善もはかっています。

「スポ GOMI」を諦めたら参加者が半減！ 面白さが若者を惹きつけることを確信

春田:サービス連合の取り組みは、私もゆにふあんの立場で石川さんから何度か相談を受けていたので、実現して嬉しい思います。

続いて水口さんに事例を紹介いただきます。連合京都北部地協では、「スポ GOMI」を開催しているんですね。

水口:そうです。連合京都北部地協では、連合が発足して間もない頃から「連合列島クリーンキャンペーン」に参加するなど、清掃活動を35年間続けてきました。

けれども年を経るごとに参加者が減少していく、近年は始めた当初の半分程度しか集まらないという課題を抱えていました。そうした状況のなか、2022年に京都府が丹後と舞鶴で「スポ GOMI」を開催することを知り、これは面白そうだ、連合京都北部地協として参加するとよいかもしないと考え、さっそく参加者を募集することにしました。すると舞鶴地区だけで15チーム、75名がエントリーする盛況ぶりだったのです。

京都府からは「連合だけで定員を大きくオーバーしているので、参加チームを絞ってほしい」と言われるほど



でした。そこで舞鶴地区のエントリーは諦め、程よくエントリーのあった丹後地区で試験的に参加することにしました。実際に「スプ GOMI」はとても面白く、参加した組合員からは「2回戦はないのか」という声が上がるほど、時間を忘れて楽しんでくれた様子でした。

かたや舞鶴地区は「スプ GOMI」の代わりに従来の清掃活動を実施することにしたのですが、参加者は30人と大きく減らすことになります。しかも「スプ GOMI」のときにエントリーしてくれたのは若い人たちを中心で、75名のうち20代が40名を占めていたのです。

「スプ GOMI」が面白くて若者を惹きつけることを知った以上、活かさない手はありません。2023年から京都北部地協で主催しようとしたが、ノウハウがなくて準備や運営に翻弄されたのが正直なところです。

馬見塚：録音しておきたくなるほど、ありがたいお話をしました。「スプ GOMI」でも人気のあるエリアでは、若者大会やファミリー大会など対象者を絞ることもあります。こうした運営の柔軟性も「スプ GOMI」の特長といえます。

春田：若年層の巻き込みや自発的な参加は、労働組合における社会貢献活動の課題の一つです。馬見塚さんには「スプ GOMI」が若者に刺さるために何をしているのか、デジタルツールの活用も含めてお聞きしたいところです。

馬見塚：実は「スプ GOMI 甲子園」を始めたのは、それまで「スプ GOMI」への高校生の参加者が少なかったからです。それで彼らにとって「スプ GOMI」が魅力的なものに映るようにするには、“甲子園”しかないだろうということでした。

とはいえた講演でもお話ししたとおり、参加する高校生たちも最初のうちは先生に勧められて参加するなど、受け身の姿勢だったんですね。けれどもチャレンジしてみて、勝って嬉しい、負けて悔しい、あるいは「自分たちでもできるんだ」といった感情の揺さぶりが、クラスメイトに話す、SNSで投稿するなどの伝えるアクション

につながって、バズコンテンツへと成長した印象です。これらを踏まると、ターゲットに合わせたイベントの設計や、共感を呼ぶ発信が大切なではないでしょうか。

動員に頼らず共感から参加を促す コミュニケーション面の工夫も

中村：後はおしゃれさというか、センスも大事ですよね。馬見塚さんの講演スライドは洗練されていて、地道な分、真面目でか抜けないイメージになりがちな社会貢献活動の報告とは違うものでした。

先ほど講演で紹介したデンソー労働組合の取り組みも、思わず覗きたくなる軽やかなWebページですし、「学び」「自己啓発」といった言葉を使わないなど、デザインやコミュニケーション面でも工夫を凝らしています。スタートアップ経験のある方が推進されていて、一緒にやりたいと思わせる表現がとても上手です。このあたりは、労働組合がアップデートできるポイントな気がします。

春田：総合運動推進局でも今日のイベントのように、かしこまらず肩の力を抜いて参加できるようなカジュアルさを演出したり、自然とコミュニケーションが生まれるような仕掛けを取り入れたりと工夫しているところです。労働組合が抱える“闘う”イメージの払拭が、大事になってくるでしょうね。

石川：確かに労働組合と聞くと、動員というイメージが先行してしまうところがあるのかもしれません。

一方、私たちの清掃活動では地域のことを知ろう、仲間のことを知ろうという呼びかけを意識しています。というのも、観光やレジャーはサービス連合に加盟する複数の業界が互いに関与し合い、地域に受け入れられることで成り立つ産業もあるからです。

「日ごろお世話になっている地域をきれいにしよう」というメッセージは、きれいごとに聞こえるかもしれません、意外と若い組合員には響くように感じます。

水口：楽しさに加え、役に立つ感覚も大切ですね。私たちの連合京都北部地協は丹後や舞鶴など日本海に面していて、海洋ごみは身近な社会問題です。海岸にゴミが押し寄せる姿から、清掃活動も自分ごとにしやすいところがあります。また最近は家族での参加に力を入れ、バーベキュー大会を同時開催していますが、最後、食べ終えてごみが出ることが可視化され、持ち帰るところまでを体験に含めています。

また、かつては動員方式を用いていましたが、今はやめています。活動に共感した人が自主的に参加する形を

とっていて、参加人数は減ったものの、密度の高い意義のあるものになっていると感じます。

中村：石川さんにお聞きしたいのですが、組合員の中には「社会貢献活動は、労働組合の本分から外れているのでは？」といった考え方の人もいるようですが、なぜサービス連合は、社会貢献活動を運動方針に盛り込めたのでしょうか。

石川：労働組合が行う運動の一丁目一番地は、労働環境や待遇の改善にあるかと思います。ただ私たちが携わるサービス業やツーリズム業は、世の中が平和だから成り立つところがあるんですよね。ですから社会との共生が不可欠であることを理念にも反映させていて、社会貢献活動に対してもしっかりと取り組もうという運動方針を周年行事のときに定めることができたのだと思います。

地域社会との共生のステップに 労働組合が社会貢献活動することの意義

中村：水口さんにも質問させてください。まず清掃活動を40年近くにわたり続けられていることに、頭が下がる思いです。そうしたなか、地協の取り組みを地域や自治体の方々はどう捉えているのでしょうか。

水口：行政とはうまく信頼関係を築けていると感じます。たとえば丹後にある天橋立ごみ拾いを行ったときは、行政から掃除用具の貸し出しを提案されました。参加者は手ぶらで会場に来ることができましたし、さらに車で来る人に向け駐車券も提供していただきました。

また舞鶴市では、社会貢献活動における企業や団体との連携に力を入れていて、連合京都も企業と一緒に清掃活動を行うクリーンキャンペーン共同体に加盟しています。市が間に入ることで、私たちも企業と交流をはかるいい機会になっています。

馬見塚：「スプ GOMI」も企業から自治体と関係を築きたいというニーズが多く、事務局がマッチングをはかけることもあります。はじめは企業との共催に自治体側が難色を示していたのに、いざ当日になると首長がひょっこり顔を出すなんてこともあって、社会貢献活動は官民の枠組みを超える契機になると感じます。

中村：「スプ GOMI」はプレス（報道）もうまく使って、知名度を上げていますね。秘訣はあるのでしょうか。

馬見塚：基本はプレスリリースですが、山のように届く中からマスコミに注目してもらうのは難しいですね。そこで世の中の動きにリンクさせる形で、仕掛けたこともありました。「スプ GOMI」を立ち上げた2008年は洞爺湖サミットが行われた年で、気候変動問題も議題の

一つでした。そこで会期近くに渋谷公会堂でイベントを実施したところ、NHKが取材に来て広く認知されるきっかけとなりました。場所を渋谷にしたのも、マスコミを意識したことです。

春田：最後に皆さんに向けてメッセージをお願いいたします。

水口：社会貢献活動を始めるファーストステップは、参加することだと思うんです。そこでやりがいや面白さを味わって、初めて「楽しかったよ」「意外と大変じゃないよ」と周りに呼びかけることができると思います。そのうえで、運営に携わる人や支える人を増やしていくことで、継続的な取り組みにつながるのだと思います。

石川：運営2年度目なのでまだ模索の段階ですが、労働組合が春季生活闘争のときだけ張り切っても、経営をはじめ周りからはネガティブな存在に思われかねません。社会貢献活動が行政や経営、地域と関係を築くきっかけとなり、結果的に労働組合の存在を高める機会となるはずです。やってみたいと思ったら、まずは始めてみましょう。走りながら考えればいいのです。

馬見塚：私たちも単体の労働組合からお話をいただき、「スプ GOMI」を開催した例がいくつもあります。税関労組などは職場見学も兼ねて、家族ぐるみでのイベントに仕立てています。一緒にできることがあれば、ぜひお声がけください。

中村：労働組合というと、マスコミは選挙や春季生活闘争ばかり取り上げますが、実は連帯、支え合いという社会的アクターとしても意義のある集団です。地域課題が山積する昨今、もし労働組合が社会貢献活動をやめたなら、困るのは労働組合よりも地域なのかもしれないと思え思います。

ゆにふあんフォーラムには過去2回、参加していますが、今回が最も可能性を感じました。ここから好事例がたくさん生まれることを期待しています！

春田：皆さん、本日はありがとうございました。



資料

ゆにふあん活動の記録

● …… ゆにふあんサイト ● …… イベント ● …… 季刊RENGO、RENGO ONLINE

日付	掲載媒体	名称・内容
2023年 12月20日	季刊RENGO 冬号	<p>巻頭対談 今、求められる社会貢献とは？ 杉良太郎(歌手・俳優) ×芳野友子(連合会長)</p> <p>安心してくらし、働くための大前提「社会が平和で安定していること」を改めて痛感させられる情勢が続く中で、今、私たちに求められていることは何か、杉良太郎さんと芳野友子連合会長が語り合った。</p> 
2023年 12月20日	季刊RENGO 冬号	<p>連合の社会貢献活動 “支え合い・助け合い”は労働組合の原点</p> <p>連合は、「社会貢献活動」をどう位置付け、どう進化させてきたのか、具体的にどんな取り組みを行っているのか、改めて振り返る。</p> 
2023年 12月20日	季刊RENGO 冬号	<p>社会・個人・企業「三方良し」の社会貢献</p> <p>社会貢献活動といえば、「世のため、人のため」というイメージが強いが、中村天江連合総研主幹研究員は、活動への参加が「個人のため、企業のためにもなる」と説く。「三方良し」の社会貢献活動とはどういうことなのか、詳しく聞いた。</p> 
2024年 1月	ゆにふあんサイト	<p>令和6年能登半島地震特設サイト公開 「心はともに」</p> <p>連合HPに「令和6年能登半島地震」に関する特設サイトを開設し、救援カンパの情報や連合災害関連ニュース、災害関連ワークルールQ & Aなどを掲載。</p> 
2024年 3月20日	季刊RENGO 春号	<p>報告 全力で被災地支援を！ 「令和6年能登半島地震」への連合の取り組み</p> <p>「令和6年能登半島地震対策本部」を中心に、救援カンパ、構成組織・地方連合会と連携した情報収集・共有、被災者救援に関する政策要請、政府・自治体・関係団体・NPO・NGOなどと連携・調整などの取り組みについて報告。</p>
2024年 3月20日	RENGO ONLINE (季刊RENGO 転載)	<p>巻頭対談 今、求められる社会貢献とは？ 杉良太郎(歌手・俳優) ×芳野友子(連合会長)</p>
2024年 5月20日	RENGO ONLINE	<p>サービス連合 初の社会貢献活動 現実までの道のりとこれからの展望</p> <p>組織として初となる“社会貢献活動デー”を開催し、全国7ブロック（札幌、東京、名古屋、大阪、広島、福岡、那覇）で一斉に清掃活動を実施した。取り組みに至る経緯や活動のポイントなどを石川聰一郎サービス連合事務局長に聞いた。</p> 

日付	掲載媒体	名称・内容
2024年 10月20日	季刊RENGO 秋号	<p>元日の発災から8ヵ月 令和6年能登半島地震 被災地支援のこれまでとこれから</p> <p>2024年元日の発災から今日まで、連合はどう動いたのか。東日本大震災や熊本地震などの災害支援の経験はどう活かされたのか。復興に向けた課題は何か。連合救援対策本部事務局を務めた杉山寿英連合連帯活動局長に聞いた。</p>
2025年 3月20日	季刊RENGO 春号	<p>ゆにふあん活動インタビュー 日本郵政グループ労働組合 南予支部</p> <p>日本郵政グループ労働組合南予支部では、フォトコンテスト「ポストのある風景」を毎年開催している。この活動をとおして地域社会とのつながりをどのように築いているのか、労働組合としての社会的役割をどう体現してきたのかを、南予支部OBで、フォトコンテスト立ち上げメンバーでもある上田利明さんと、現在の運営責任者である南予支部支部長の仲村猛さんに聞いた。</p>
2025年 4月20日	RENGO ONLINE	<p>あなたのまちの「連合」×ゆにふあん 連合山口</p> <p>清掃活動をはじめフードバンクや施設へのクリスマスケーキ贈呈など、数ある活動のうち、「秋吉台の火道切り(ひみちきり)ボランティア」は、連合山口にとってシンボリックなイベント。どんな取り組みを行っているのか詳しく紹介する。</p>
2025年 6月20日	季刊RENGO 夏号	<p>ゆにふあん活動インタビュー 連合北海道</p> <p>連合北海道は核兵器廃絶に向けて、若い世代に対する運動の喚起と継承・発展をめざし、2013年に北海道退職者連合とともに北海道高校生平和大使派遣実行委員会を組織。その活動の一つとして、高校生自らが、「被爆ピアノコンサート」を企画。どのような背景や思いから開催に至ったのか、石田敬雅連合北海道道民運動局次長と、第27代高校生平和大使で、被爆ピアノコンサート実行委員長の皆川舞奈さんに聞いた。</p>
2025年 8月5日	RENGO ONLINE (季刊RENGO 転載)	<p>北海道に平和の音色を～高校生被爆ピアノコンサート～</p>
2025年 8月30日	RENGO ONLINE	<p>第3回 ゆにふあんフォーラム開催</p> <p>2部構成で開催。第1部では、日本財団スポーツGOMI連盟と連携し、楽しみながら社会貢献ができる「スポGOMI」に挑戦。第2部ではシンポジウムを開催し、専門家や構成組織、地方連合会から、独自に展開している社会貢献事例を共有、ゆにふあんを盛り上げるために討論を行った。</p> 
2025年 9月1日	RENGO ONLINE	<p>ゆにふあん新サイトオープン</p> <p>これまでのプロジェクト紹介のための特設サイトから、取り組みを行ったらすぐに紹介できるタイムライン形式に変更し、より活動が紹介しやすくなった。</p> 



発行者：日本労働組合総連合会（連合）

ゆにふあん事務局（運動推進局内）

unifan@sv.rengo-net.or.jp

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

発行：2025年10月1日

はたらくのそばで、
ともに歩む



日本労働組合総連合会（連合）

